

大槌発

震災から4年6か月



東日本大震災から4年6か月。大追町吉里吉里の吉祥寺では、寺に安置されている身元が分からない震災犠牲者の遺骨19柱の供養が行われ

れました。位牌堂に安置された遺骨の一つ一つに高橋英悟住職が言葉をかけ霊を慰めました。大槌町では町内3か所の寺に73人の身元不明者の遺骨が現在も安置されています。町では納骨堂を整備して遺骨を納める計画です。(9/11 ニュースエコー)

陸前高田発

復興支援の庭園造り



陸前高田市で東北各地や関東の造園家に人たち100人ほどが参加し、復興を祈願する庭園造りを行いました。広田湾を見下ろす陸前高田

市小友町にある「杉の家はこね」の庭園を『箱根山・復興希望の庭園』としてリフォームするもので、池を広田湾に見立て、山から水がそそぐ穏やかな故郷をイメージした庭になります。造園家たちは市民の憩いの場や観光名所として育てていきたいとしています。(9/11 ニュースエコー)



宮古発

行方不明者の集中捜索

宮古市では悪天候で延期されていた東日本大震災による行方不明者の集中捜索が行われました。宮古市崎山の女遊戸海岸周辺で宮古警察署の署員17人が捜索を行いました。宮古市では震災で今も94人の行方がわからないままで、参加した署員は行方不明者につながるものがないか慎重に捜索していました。県内ではいまなお1129人の行方が分かっていません。(9/14 ニュースエコー)



陸前高田発

ベルトコンベア終了式

高台を切り崩して出た土砂を、かさ上げする旧市街地に運び出してきた陸前高田市の巨大ベルトコンベアが運転を終了しました。総延



長はおよそ3キロ。昨年3月に稼働を始め、気仙町今泉地区の山から土砂500万立方メートルをかさ上げする旧市街地に運び出しました。来月から解体が始まりますが、「希望のかけ橋」と呼ばれる気仙川をまたぐ吊り橋は来年の4月に入るまで残される予定です。(9/15 ニュースエコー)

盛岡発

リサイクル軍手寄贈



復興に伴う作業に活用してもらおうと、大手衣料品メーカーオンワード樫山と盛岡の百貨店パルクアベニュー・カワトクが衣類をリサイクル

して作った軍手1000セットを県に贈りました。オンワード樫山では、2009年から不要となった衣料品を持ちこむとポイントがもらえるキャンペーンを展開し、集まった品をリサイクルして作った軍手や毛布を世界の被災地へ贈っています。カワトクもこのキャンペーンに加わり、震災被災地を支援しています。(9/15 ニュースエコー)

大槌発

さんりく元気ラジオ!

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

今週は、おおつちさいがいエフエムの菊池由貴子さんが「震災の記憶を語り継ぐこと」について伝えてくれました。9月で東日本大震災の発生から4年半となりましたが、平野公三新町長は被災した『旧役場庁舎』の年度内解体の意思を示しています。この方針に対しては市民の間で賛否両論があることから、菊池さんは「町が進めてきた『震災検証』と『生きた証(あかし)事業』を含め、ここでもう一度『震災のことを忘れないで伝えていく』ために、大槌町民が一緒になって考える場が必要なのは。」と話していました。(9/16)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.abc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122